

センリョウの新挿し木法について

1. はじめに

センリョウの増殖は、実生繁殖により行われていますが、実生苗は個体間で形質が一定しない欠点があります。栄養繁殖法として挿し木繁殖がありますが、ここでは、従来の方法より効率的な挿し木繁殖法について、検討しました。

2. 試験方法

挿し木は、2004年5、6、7、8月のそれぞれ中旬に行いました。供試材料は、5、6、7月区には1年生シュートをを用い、8月区には腋芽を用いました。挿し穂は、先端から5cm位に調整し、葉を4枚付けそれぞれ半分に切除しました。挿し穂の基部には、節を残し、IBA(0.5%)を粉衣して挿し木を行いました。挿し床は、支持体として鹿沼土を入れた育苗箱(横30cm×縦50cm×高さ8cm)を使用しました。水分管理方法については、挿し床全体をビニールで覆って、水が貯まるようにしたプール挿し区(写真1)と従来のかん水がかけ流しとなる対照区を設けました。2~3日間隔で手かん水し、自然日長下で、当所センリョウ小屋(遮光率80%)で管理しました。試験は1区20本とし、挿し木2ヶ月後に調査を行いました。

3. 試験結果

(1) 水分管理法

発根本数は、5月区を除き、プール挿し区が対照区より多く、枝根本数、最長根長、根茎及びシュート発生本数は、全ての時期において、プール挿し区が対照区に比べ優れました(表1)。5、6、7月区における発根率は、プール挿し区が60~90%で、対照

区の5~40%より高くなりました(図1)。

(2) 挿し木時期

発根率は、プール挿し区では6月区が90%と最も高く、対照区では8月区が80%と最も高くなりました(図1)。

6月区のプール挿し区は、枝根本数が23.8本で最も多く(表1)、良質な苗が得られました(写真2)。

4. おわりに

以上の結果、プール挿しを行うと、発根率が高く、発根状態のよい苗が得られ、最適な挿し木時期は6月であることが明らかとなりました。対照区では、挿し床の乾燥が多くみられ、発根率や発根状態が悪かったことから、センリョウの挿し木には挿し床の水分条件が大きく影響していると考えられました。

今回、新たに開発したプール挿し法は、2~3日間隔の手かん水で、挿し木の水分管理が可能であり、生産現場でも容易に導入できると思われます。今後は、プール挿し法を活用し、現在、選抜中の実落ちの少ない優良系統の増殖に役立てたいと考えています。(育種部 古屋 挙幸)

表1 挿し木時期及び水分管理法の違いが発根に及ぼす影響

挿し木時期	水分管理	発根本数 (本)	枝根本数 (本)	最長根長 (cm)	根径 (mm)	シュート発生本数 (本)
5月区	プール挿し	6.6	14.3	3.4	1.3	1.4
	対照	8.3	11.8	2.8	1.2	0.8
6月区	プール挿し	5.0	23.8	4.5	1.4	2.0
	対照	3.6	0.4	0.9	1.0	0.0
7月区	プール挿し	2.9	12.3	5.2	1.0	1.6
	対照	1.5	2.0	1.2	0.8	2.0
8月区	プール挿し	5.6	14.6	5.1	1.6	1.9
	対照	4.8	3.5	1.8	1.5	1.6

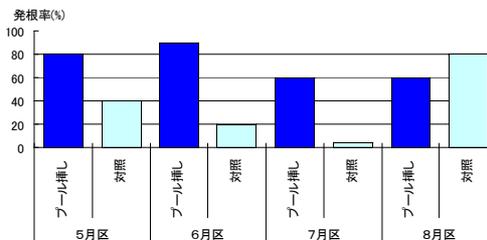


写真1 プール挿し(湛水状態)

図1 挿し木時期及び水分管理法と発根率



写真2 6月区の出根状態

注: プール挿し(上)、対照(下)